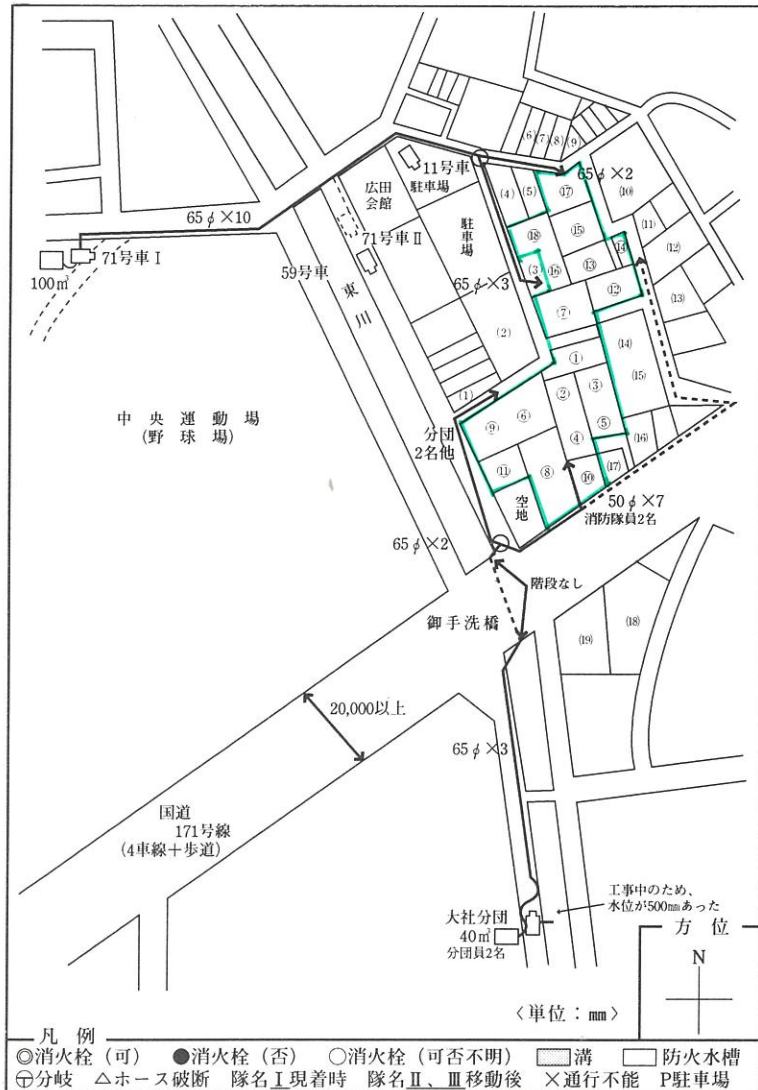


【火災活動事例①】

西宮市広田町1 火災No.5

全 焼：15棟 1,422㎡	全 損：18世帯 55名
半 焼：	半 損：
部分焼：3棟	小 損：2世帯 12名



【特記事項】

(ヒアリング)

- ・地震直後、文化住宅から出火。火災現場の住民は、救助活動をするのが精一杯で初期消火出来ず。
- ・その後、付近住民が現場西側の川の水を汲み上げて消火
- ・出火当時の風は、北東方向から吹いていたが、途中南西の風が変わった。

(消 防 隊)

- ・火災当初は、地元大社分団車両1台と週休、非番の消防職員2名が国道171号線南側にあるマンションの防火水槽に部署、国道通過車両によるホース破断を防ぐため、河川内をホース延長し、西側、南側からの2線放水したが、防火水槽の水が無くなり河川をせき止め取水した。
- ・非番職員は、自宅マンション北側の公衆電話から何度も119番通報を試みるが通じず、6時45分管轄外の鳴尾消防署に電話が通じ、広田町の火災発生を報告する。
- ・その後、消防局車両3台(ポンプ車2台、救急車1台)が、西側市民グラウンド内にある100㎡防火水槽に部署、北側から2線放水と救助活動を実施した。防火水槽の水が無くなり河川に再部署し放水(鎮火：16時00分)

【火災活動事例②】

西宮市高木西町 5 火災No.6

全 焼：5 棟 522㎡	全 損：9 世帯 16名
半 焼：1 棟 40㎡	半 損：1 世帯 3名
部分焼：1 棟 10㎡	小 損：3 世帯 9名
ぼ や：2 棟	



【特記事項】

(ヒアリング)

- ・出火直後から付近住民多数が、救助活動と並行して消火器で初期消火に努めたが、瓦礫に阻まれ効果なし。
- ・消防隊の放水による道路に流れ出した消火水をスポンジでバケツに集めたり、消防車のサブ・ラジエーターからの放出水をバケツに集めるなど、種々の方法でバケツリレーによる消火活動を行う。

(消 防 隊)

- ・現場近くで救助活動を実施していた消防局のタンク車が無線指令により出動、始め積載水のみで対応するが、その後、地元高木分団の中継水を受ける。
- ・消防団は、現場北東直線距離約300mの農水路に部署し、水路をせき止め取水、ホース23本を延長した。
- ・後続の徒歩部隊が、署から可搬式動力ポンプを持ってきて、現場西側直線距離約50mの農水路をせき止めて水利部署し、1線放水した。
- ・現場に対し水の絶対量が不足のため、現場南側の阪急電鉄西宮車庫内にある屋外消火栓からホースを延長、中継水を受ける。(屋外消火栓の水槽容量165㎡)
- ・屋外消火栓使用については、昨年の異常渇水時における特別消防体制の一環として、近隣市場火災対策で事前に協力量依頼していた。

【火災活動事例③】

西宮市仁川百合野町10
火災No. 8

全 焼：7棟 543㎡	全 損：8世帯 26名
半 焼：	半 損：
部分焼：	小 損：



【特記事項】

(ヒアリング)

- ・地震直後に大規模な土砂崩れが起こり、7棟が埋る。
- ・最初は救助活動をしていたが、夜が明け出し明るくなってから、瓦礫の中から煙が出だしたと思ったら、あちらこちらでドンドンという音がして、一瞬のうちに燃え広がった。
- ・大学生を中心とした付近住民100名位が消火器を持ち寄り消火したが消えず、最寄りの消防署に駆け付け通報する。また、消火活動と並行して救助活動も実施していた。
- ・消防隊到着後もホース延長などを手伝うとともに、近隣家屋から風呂の残り湯をバケツリレーで消火にあたる。(最長約200m)

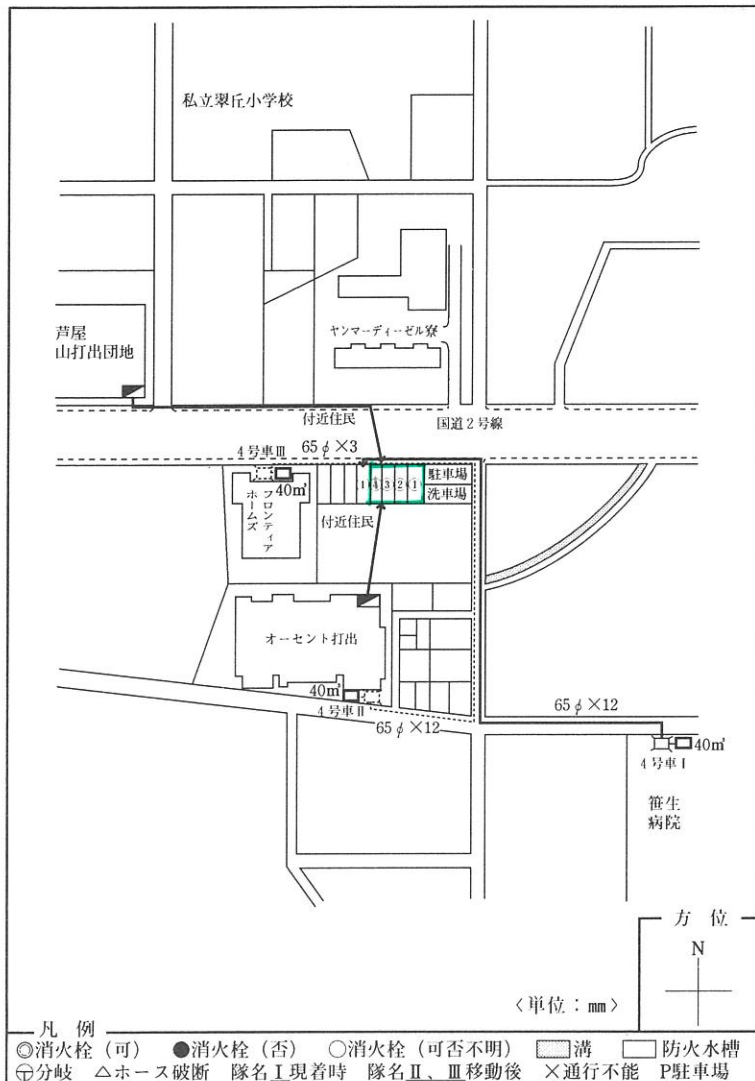
(消 防 隊)

- ・消防局ポンプ車2隊が出動、先着隊は到着時マンションの受水槽を使用して消火活動を実施したが、水が無くなり、バケツリレーの水を受水槽に入れて貰った。後着隊が現場から直線距離約450mの防火水槽 (40㎡) に部署し、ホース延長してきたので中継を受け、救助活動と併せ実施
- ・防火水槽の水も無くなり、土砂崩れ現場東にある阪神水道企業団内の貯水池に再部署する。

【火災活動事例④】

西宮市弓場町9 火災No.9

全 焼：4棟 273㎡	全 損：2世帯 6名
半 焼：	半 損：
部分焼：	小 損：



【特記事項】

(ヒアリング)

- ・地震直後に、鉄骨造平屋建1棟1店舗の物品販売店から出火
- ・一気に室内が炎に包まれ、すぐに西隣の店舗に延焼、さらに西隣の事務所兼住宅に延焼しているとき、付近住民が出火建物南側マンション（オーセント打出）の屋内消火栓から、さらに出火建物北側のマンション（芦屋山打出住宅）の屋内消火栓から国道2号線を横断し、消火にあたる。

(消 防 隊)

- ・災害情報収集隊（指揮広報車）が、自己覚知後、直ちに車載無線で管制室へ連絡
- ・可搬式動力ポンプを積載した広報車が出動するも、夙川橋に約50cmの段差が出来、上下線とも大停滞していたため、中央分離帯を走行し、現場南東の防火水槽に部署し放水する。
- ・先に部署した防火水槽が空になり、現場南の防火水槽へ転戦したが、水が空になったため、さらに現場西の防火水槽へ転戦した。
- ・延べ3時間30分の放水の末、10時46分鎮火する。

【火災活動事例⑤】

西宮市郷免町5 火災No.10

全 焼：3棟 247㎡ 車両1台	全 損：3世帯 11名
半 焼：	半 損：
部分焼：	小 損：



【特記事項】

(ヒアリング)

- ・地震直後に倒壊した、木造瓦葺2階建1棟1戸の専用住宅の1階台所付近から出火
- ・北隣の1階が崩れ2階が傾いた、木造瓦葺2階建1棟1戸の専用住宅に延焼
- ・火がさらに、南隣の木造瓦葺2階建1戸の専用住宅に延焼しようとするとき、現場の東約100m離れた安田火災海上・青雲寮の寮生が、寮の屋内消火栓3ヶ所からホースを延ばすとともに、付近住民が消火器と水バケツリレーを行い初期消火にあたる。

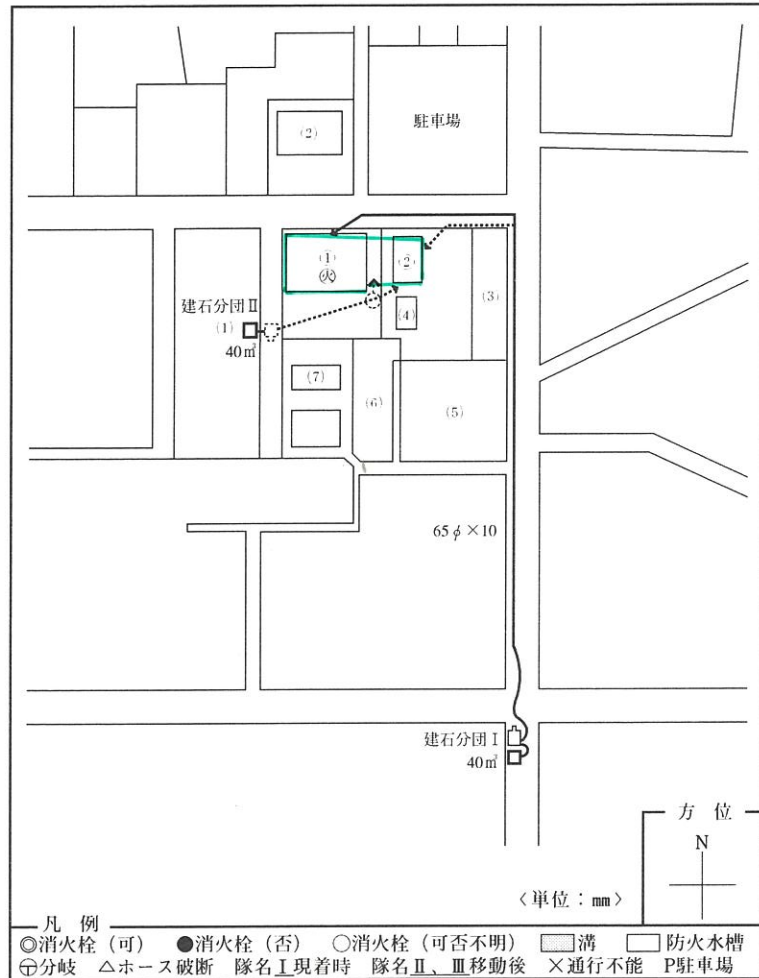
(消 防 隊)

- ・災害情報収集隊 (指揮広報車) が、自己覚知後、直ちに車載無線で管制室へ連絡
- ・可搬式動力ポンプを積載した広報車が出勤し、現場北西の防火水槽に部署し放水する。
- ・付近住民などによる消火活動により、延焼阻止が図られており、火災は最盛期を過ぎていた。

【火災活動事例⑥】

西宮市弓場町 6 火災No.11

全 焼：1棟 156㎡	全 損：1世帯 4名
半 焼：1棟 58㎡	半 損：1世帯 2名
部分焼：	小 損：



【特記事項】

(ヒアリング)

- ・地震により、木造瓦葺2階建1棟1戸の専用住宅が倒壊し、4名が生き埋めとなり、付近住民による救出作業実施中、約1時間後に1階居間から出火
- ・生き埋め4名のうち、救出可能な2名を救出後、出火建物西隣の香櫨園グリーンコーポなどから消火器で消火にあたり、使い切った後、同コーポ内の防火水槽から水を汲み上げ、バケツリレーを行う。

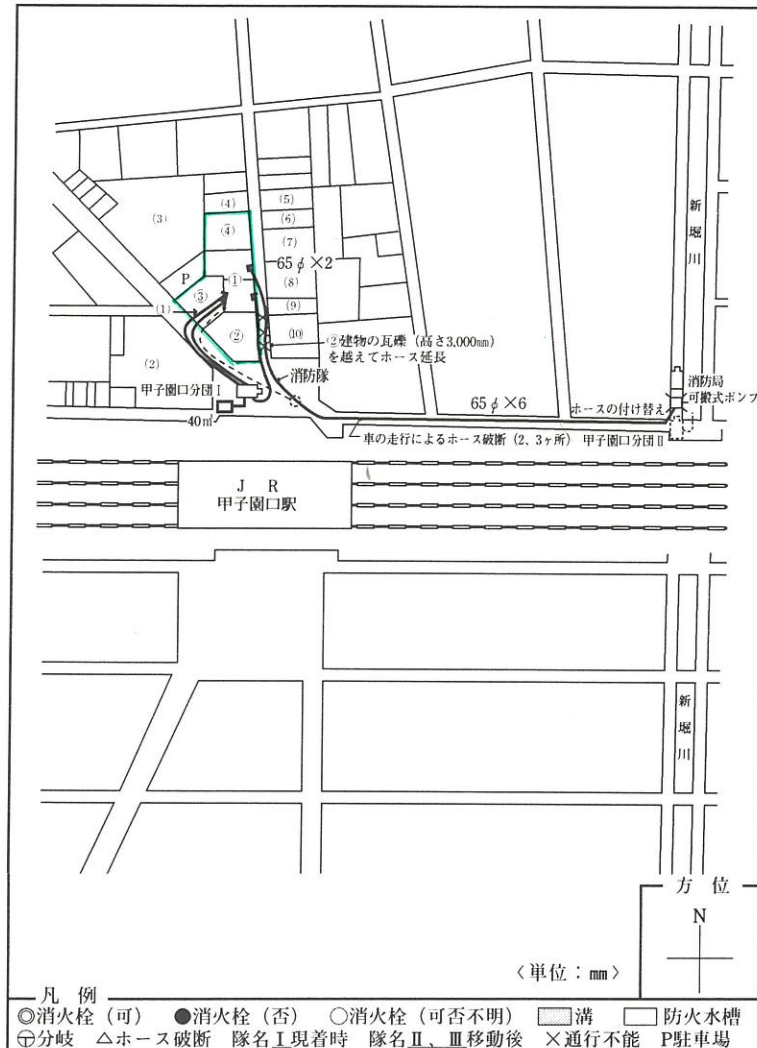
(消 防 隊)

- ・災害情報収集隊 (指揮広報車) が、自己覚知後、直ちに車載無線で管制室へ連絡
- ・地元建石分団が出動、現場南東の防火水槽に部署、現場直近で分岐2線放水する。
- ・部署した防火水槽が空になり、香櫨園グリーンコーポ内の防火水槽に転戦部署し鎮圧する。
- ・分団車庫前の道路は、建物倒壊により南下出来ず、また、国道2号線に行くまでの道路はブロック塀が倒れ通行不能であった。このブロック塀の除去は、付近住民の協力を得て迅速に撤去出来た。

【火災活動事例⑦】

西宮市甲子園口北町1
火災No.16

全 焼：1棟 173㎡	全 損：1世帯 3名
半 焼：	半 損：
部分焼：3棟	小 損：1世帯 3名



【特記事項】

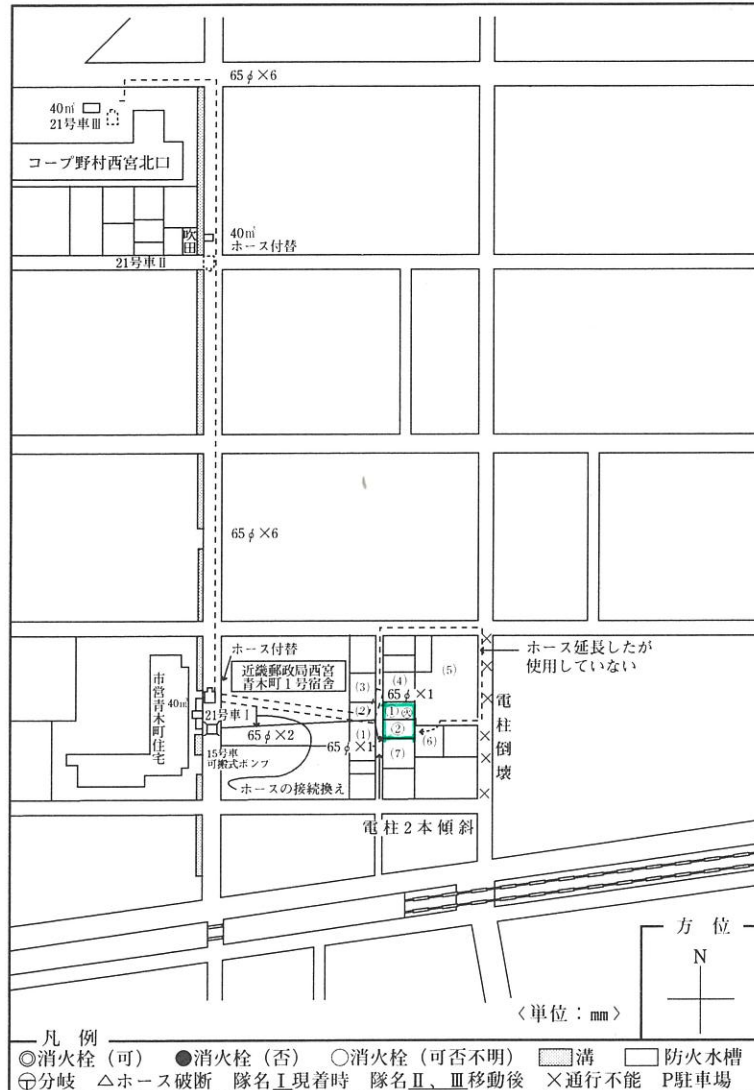
(ヒアリング)

- ・地震後しばらくして、軽量鉄骨造一部木造鉄板葺2階建1棟2店舗付住宅の1階店舗部分から出火
 - ・付近住民が消火器で初期消火活動するも、一気に燃え上がり、隣接する南北及び西側のビル3棟の外壁を焼焦した。
- (消 防 隊)
- ・地元甲子園口分団が直ちに出勤、現場南側の防火水槽に部署し3線放水するとともに、出火建物南のホーキビル (RC造7階建店舗付住宅) が倒壊しており、居住者の救出活動と並行して実施する。
 - ・その後、可搬式動力ポンプを積載した消防局軽自動車が出動、現場から東約400m離れた河川に部署、放水するも噴砂がポンプ内に詰り、使用不能となった。
 - ・火元建物東側への延焼は、倒壊ビルの瓦礫 (高さ3m) を乗り越えてホースを延長して行わなければならない、消火活動は困難を極めた。
 - ・甲子園口分団は、先に放水していた防火水槽の水が無くなり河川へ転戦部署し、消防局のホースを接続し放水を続け、約2時間後に鎮圧したが、倒壊したホーキビルのガス管破裂に伴い、炎が噴出していたため、消火活動を続行する。

【火災活動事例⑧】

西宮市青木町 9 火災No.18

全 焼： 2 棟 156㎡	全 損： 2 世帯 7 名
半 焼：	半 損：
部分焼：	小 損：



【特記事項】

(ヒアリング)

- ・地震発生直後の5時47分頃、当火災現場の真北に隣接する共同住宅など4棟442㎡が全焼する火災が発生し、8時56分に鎮火した。
- ・その後の9時05分頃、南側に隣接した木造瓦葺2階建の住宅2階北側押入付近から出火
- ・付近住民が側溝の水をバケツリレーし初期消火にあたる。

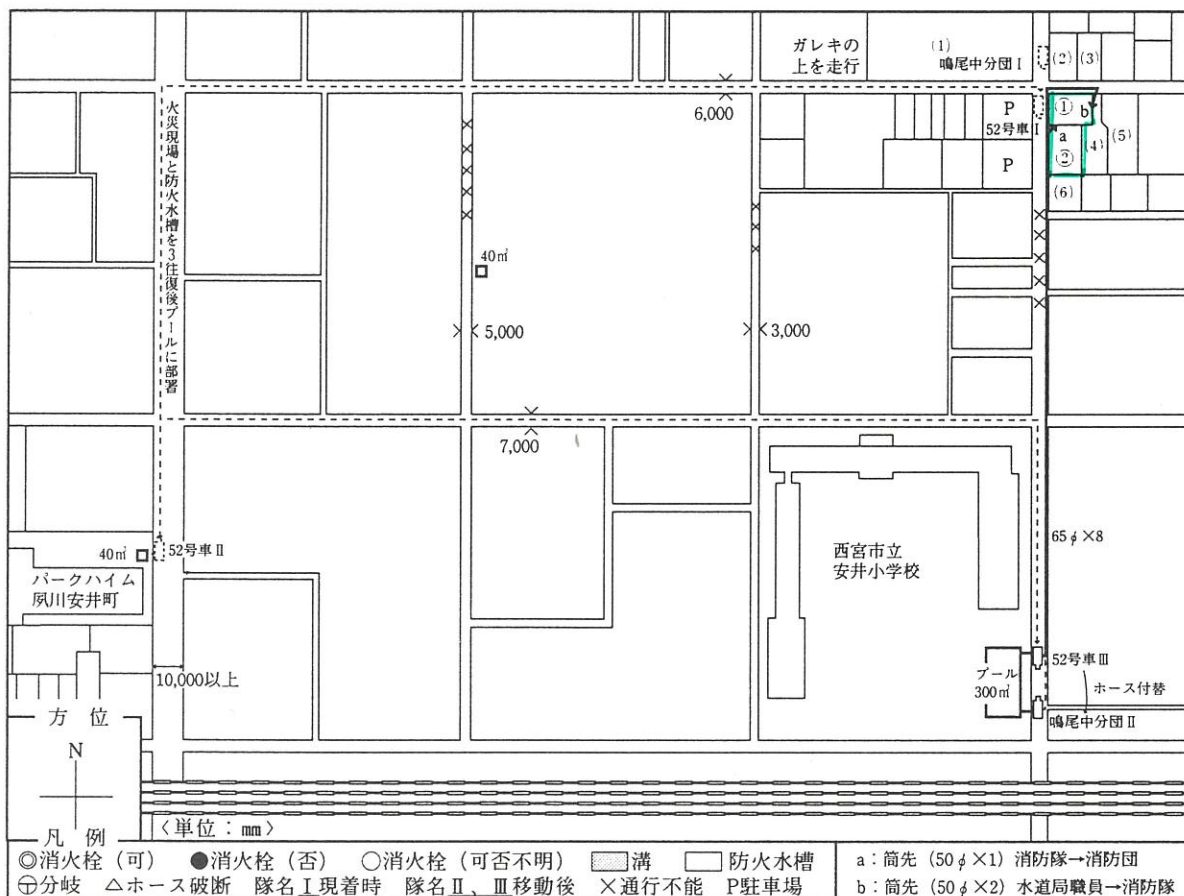
(消 防 隊)

- ・119番通報により覚知、消防局からポンプ車1台及び可搬式動力ポンプを積載した資器材搬送車1台、安井分団が出動
- ・可搬式動力ポンプは、現場から西約60mの防火水槽に部署し放水する。その後、防火水槽の水が無くなり、放水を停止する。
- ・ポンプ車は、現場から北西約120mの防火水槽に部署し、現場直近で分岐2線放水した。防火水槽の水が無くなり、さらに北約130mにある防火水槽に転戦部署する。

【火災活動事例⑨】

西宮市常磐町7 火災No.21

全 焼：1棟 122㎡	全 損：1世帯 2名
半 焼：	半 損：
部分焼：1棟	小 損：1世帯 5名



【特記事項】

(ヒアリング)

- 地震発生により建物が倒壊し、生き埋めとなった居住者1名を付近住民が収容後、約6時間後に木造瓦葺2階建1棟1戸の専用住宅の建物中央部から出火
- 付近住民が現場から南約170mの安井小学校プールから、バケツリレーによる消火にあたる。

(消 防 隊)

- 現場近くで救助活動中のタンク車が自己覚知し、救助隊員を残し現場に向うと、火災は最盛期で南側へ延焼寸前であった。
- 付近住民に小学校のプールまでのホース延長を依頼し、その間積載水補水のため、現場西側の防火水槽を往復し、消火にあたる。
- その後、鳴尾中分団が到着、プールに部署しタンク車のホースを分団ポンプ車に付け替え、1線放水する。